

市議会だより

おおだ

No.56

2019 (令和元) 年7月18日発行

～火山からの贈り物 Vol.1～

萩ヶ浦 “スザマの美学”

6月定例会 6月14日～28日

- 令和元年度一般会計補正予算可決……………2
- 大田市公共施設適正化計画等11人が市政を問う…5
- 5/25(土) 議会報告会を開催しました……………12

編集・発行 〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-9927
大田市議会 <http://www.city.ohda.lg.jp/> E-mail: o-gikaijinu@city.ohda.lg.jp

6月定例議会は、一般会計、特別会計の令和元年度補正予算のほか、新規条例の制定や条例の一部改正、一般案件、議員提出案件を慎重に審議した結果、全議案とも原案どおり可決しました。

どおり可決～

より約4億600万円を補正

福祉



社会福祉法人 慈光会

地域密着型サービス拠点整備補助

(小規模多機能居宅介護事業所(湯の郷苑)の整備に対する補助)

4,115万円

観光



休止中の三瓶観光リフト

大田市観光施設改修事業

(4月27日に故障した三瓶観光リフトの改修経費)

8,145万円

その他の補正

補正額

その他の補正	補正額
定住促進事業(首都圏からの移住・定住の促進)	200万円
コミュニティ助成事業(宝くじ助成事業の採択により防災資機材等の整備を行う他2件)	490万円
子育て支援システム改修事業(幼児教育・保育無償化に対応するためのシステム改修)	901万円
畜産競争力強化対策事業(認定農業者が実施する繁殖牛舎の増改修等に対する補助)	1,230万円
大田市企業立地奨励金(大田市企業立地奨励条例に基づく雇用助成・家賃等の助成)	294万円

◇5月臨時会提出議案等賛否一覧表

議案名	議員名等	議決結果	賛成	反対	林茂樹	亀谷優子	根宜和之	和田浩司	三谷健	森山幸太	胡摩田弘孝	森山明弘	小川和也	石田洋治	松村信之	小林太	河村賢治	大西修	月森和弘	塩谷裕志	清水勝	石橋秀利
■市長提出議案																						
議案第122号 専決処分（大田市税条例等の一部を改正する条例制定）の承認について	原案承認	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第123号 専決処分（大田市都市計画税条例の一部を改正する条例制定）の承認について	原案承認	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第124号 平成31年度（平成30年度繰越）国民宿舎さんべ荘改修（建築主体）工事請負契約の締結について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第125号 平成31年度（平成30年度繰越）国民宿舎さんべ荘改修（機械設備）工事請負契約の締結について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第126号 都市公園整備事業大田総合体育館改修建築主体工事請負変更契約の締結について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※定数20名（現員18名）、うち議長（石橋秀利）は採決に加わりません ※○は賛成、●は反対等（反対、継続審査、態度保留等々）

◇6月定例会提出議案等賛否一覧表

議案名	議員名等	議決結果	賛成	反対	林茂樹	亀谷優子	根宜和之	和田浩司	三谷健	森山幸太	胡摩田弘孝	森山明弘	小川和也	石田洋治	松村信之	小林太	河村賢治	大西修	月森和弘	塩谷裕志	清水勝	石橋秀利
■市長提出議案																						
議案第127号 令和元年度大田市一般会計補正予算（第1号）	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第128号 令和元年度大田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第129号 令和元年度大田市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第130号 大田市森林環境整備基金条例制定について	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第131号 大田市税条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第132号 大田市手数料条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第133号 大田市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	15:2	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第134号 大田市三瓶山周辺観光施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	14:3	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第135号 大田市火災予防条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第136号 財産の取得について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第137号 財産の処分について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第138号 令和元年度大田市一般会計補正予算（第2号）	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
■議員提出議案																						
意第4号 新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について	原案可決	17:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
■請願・陳情																						
請願第4号 後期高齢者の医療費窓口負担の「原則1割」の継続を求める意見書提出方について	継続審査		議会閉会中の継続審査（民生委員会付託）																			
請願第5号 ハンセン病家族訴訟及びハンセン病問題の全面解決を求める意見書提出方について	継続審査		議会閉会中の継続審査（総務教育委員会付託）																			

※定数20名（現員18名）、うち議長（石橋秀利）は採決に加わりません ※○は賛成、●は反対等（反対、継続審査、態度保留等々）

いっぱん質問



市政に対する一般質問は、6月19日、20日に行われ、11人の議員が執行部の考えをたじました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。掲載する質問事項は、紙面の都合上、広報広聴委員会で選定し、1人1議題としています。(内容は、ホームページ(<http://www.city.ohda.lg.jp/>)で閲覧できます。)

▲建設の進む新大田市立病院 6月17日撮影

答弁 当市は、大田市新観光振興計画の地域の魅力を発信する施策のひとつにスポーツツーリズムの推進を掲げている。また、教育委員会の第2期スポーツ推進計画の取り組みのひとつである、23回目を迎える

質問 ラグビーワールドカップなど世界的規模のスポーツ大会が、日本で次々と開催されることで、スポーツをきっかけとした旅行による、交流人口拡大と経済的効果が期待される「スポーツツーリズム」が注目されている。この新しい観光スタイルの拡大が大田市にも必要ではないか。現在の取組状況と今後の推進について伺う。

スポーツツーリズムによる観光スタイルの拡大の考えは

スポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光の融合を図る

ねぎ かずゆき
根宜 和之 議員

る三瓶高原クロスカントリー大会は、全国各地より約1、400人のランナーが参加し、広域的な交流人口の拡大につながっている。スポーツ目的の来訪者は、当市の魅力を発信していただく重要な旅行者でもある。美しい海岸線を利用したサイクリング、温泉津温泉街のリレーマラソン以外にも、石見銀山など当市が誇る歴史、自然環境にどういったスポーツが組み合わされるかを深く掘り下げ、市内観光地への周遊を促し、宿泊の増加につなげるため、関係部署と連携し推進するところとしている。



▲三瓶高原クロスカントリー大会

将来を見据えた 介護人材の確保・育成を

市介護サービス事業者協議会
とも連携を密にして取り組む

もりやま こうた
森山 幸太 議員

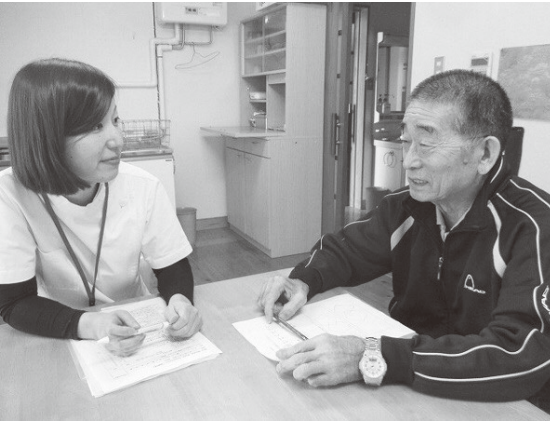


職場における健康づくりやワークライフバランスの推進、子育て支援の充実やスキルアップに結びつく各種研修などの取り組みが進んでいる事業所も増えている。高校生を対象とするインターンシップや中学生の職場体験は、既に瀬摩高校、市内中学校で実施されている。今後現場の声を大事にし、介護人材の確保や育成を通じて労働環境の整備をしていきたい。

質問 厚生労働省が、今後は年間約7万人程度の介護人材確保が必要である推計結果を公表した。大田市としても、各事業所と連携して介護人材の確保、質の高い介護サービスを提供する職員の育成に向けて、働きやすい労働環境の整備、インターンシップや職場体験の導入を促進するべきであると考えているが、所見を伺う。

答弁 国において、介護職員の賃金は平成21年から29年の間に4回の改善がされており、本年10月の介護報酬改定により新たな加算が創設され、一定の賃金改善が進むものと考えているため、市独自の処遇改善は現在考えていない。

介護職員



子どもの医療費を 18歳まで無料に すべきである

地方単独の医療費助成事業の
実施により、国庫助成の減額が
見込まれる

かめたに ゆうこ
亀谷 優子 議員



では3市のみ、トップクラスの助成を行っている。平成30年度の小中学生に係る給付額の実績は、約4,700万円。そのうち小学生は、約3,300万円であり知事の公約が実現した場合、仮に県の補助割合が2分の1であれば、約1,650万円の負担軽減となる。一方で、地方単独の医療費助成事業を実施すると、医療費の増加を招くとして、国民健康保険に係る国庫助成がさらに減額されると思われる。ゆえに、高校生世代までの事業拡大については、現行制度でご理解いただきたい。

質問 新たに就任した県知事は、若い子育て世帯等の負担軽減策を拡充するとして「島根県すべての自治体で暮らす小学生までが負担する医療費を無料とする」という公約を掲げている。大田市ではすでに中学卒業まで子どもの医療費は無料になっているが、さらに18歳までを無料にするべきと考えているが、所見を伺う。

答弁 総合計画策定の際の市民アンケートの子育て支援について、満足度が高く、かつ重要度も高いという結果から、子供に係る医療費助成は重要であると認識している。当市では、乳幼児から中学卒業までの医療費を無料としており、県内



▲子ども医療費(イメージ)

食品ロスの削減に向けた今後の大田市の取り組みを問う

庁内関係部署との連携を図り市民への啓発活動に努める

いしだ ようじ 議員
石田 洋治



される。今後、国の基本方針を踏まえ策定していく。これまでは人権推進課の消費生活専門相談員が、自治会・各種団体の研修会に出かけ消費者庁作成のリーフレット等を活用し、啓発活動を行っている。

2. 幼稚園では食習慣に始まり、小学校では身近なごみ問題を学習する中で食べ残しの学習を、中学校については世界各国の食料自給率や国際社会情勢などの中で食糧問題をより深めた授業を行っている。

3. 30・10運動については、生活環境問題連絡協議会において意見交換を行い、ホームページ、銀山テレビ等で周知に取り組んでいる。また、飲食店についてはお客様に言いつらいとの意見もあった。

4. 市では家庭に眠っている食品で、常温保存が可能な米・乾物・インスタント食品等を寄贈していただき、社会福祉協議会が福祉施設や団体へ無償で提供している。



▲フードバンク活動

質問

まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」の削減をめざす食品ロス削減推進法が成立しました。また、この法案にはフードバンク活動への支援も盛り込まれています。今後の大田市の取り組みを伺います。

1. 市民への啓発について
2. 児童生徒への啓発・教育について
3. 飲食店での啓発促進(30・10運動等)
4. フードバンク活動への支援(社会福祉協議会との連携、市民への啓発)

答弁

1. 今年度中に食品ロスの削減に関する基本方針が策定され、削減計画の策定が努力義務化

大田市における会計年度任用職員制度の運用の考え方は

制度の導入は、臨時・非常勤職員の労働環境の改善につながる

おおにし おさむ 議員
大西 修



質問

1年任用の会計年度任用職員制度の導入は、臨時・非常勤職員の大部分を移すものです。

この改正では「いつまでも、非正規雇用」「いつでも雇止め可能」「生活できる賃金が保障されない」など問題があります。そこで①無期転換ルールについて②再度任用の年数制限について③再度任用時の職務経歴等の考慮と報酬の水準について伺う。

答弁

①労働契約法において、公務員は無期転換ルールの適用除外である。会計年度任用職員制度の総務省マニュアルにも、会計年度任用職員を正規職員に転換する制度

は設けられていない。

②再度の任用に当たっては、毎年度、勤務実績による客観的な評価を行った上で選考し任用しており、一律に任用の回数や年数を制限することは考えていない。一方で、長期に継続して勤務できるといった誤解を招かない対応が必要である。

③報酬の水準は、会計年度任用職員の業務内容や責任の程度は正規職員と同等でないことから、報酬の水準に一定の上限を設けることを検討している。

市役所



学校跡利用など、 財政的問題について問う

土地代金から解体経費相当額 を控除するなど様々な可能性 を模索する

かわむら けんじ
河村 賢治 議員



閉校となつていく。これら空き校舎の活用を指針を定め、地域の方などと協議を進めながら、活用している。不特定多数の方が利用される施設への転換は、多額の財源が必要となるが、関係法律の規制緩和については、安全性の観点から難しい。

質問 学校跡利用の難しさに、用途変更の妨げとなる建築基準法や消防法がある。建物が大きいことも対策費用が大きく膨らむ要因である。大田市として、学校跡利用がもつと有効に行われ、対策費用が少なくなる方法はないものか。行政財産に関する規制緩和を図っていく必要があると思う。また、民間から購入希望がある建物は、売却の検討をし、速やかに対応するよう希望する。

答弁 平成20年7月に策定した学校再編実施計画に基づき、市内小・中学校の統廃合を行った結果、7つの小・中学校と1つの分校が

利用予定のない建物については、積極的に民間への売却を進めつつ、地域振興のための取り組みを優先的に対応する。用途廃止し、利活用できない建物については、土地代金から解体経費相当額を控除するなど、さまざまな対策を検討していきたい。



旧富山小学校

河川や市道の整備・ 維持・管理について問う

国・県との連携を図る中で、 より有利となる財源の確保に 努める

こまだ ひろたか
胡摩田弘孝 議員



んせつ、県管理8河川の除草を実施した。災害で浸水被害の大きかった地域では順次河川改修を行っている。③平成27年に、除草単価を作業時間と作業人数による算定方法から、除草等の作業延長による算定方法に見直した。

質問 人口減少、高齢化が進む中、毎年度、道路の補修や整備、緊急車両が入れない場所などの幅員拡張や改良、河川改修等の要望が年間600件を超えるペースで寄せられています。そこで以下、4点について市の考えを伺う。①市道の維持管理②河川改修の状況③道路整備の日頃の対応④土木事業の今後の方向性について

答弁 ①市道の修繕、改良の要望は市民の皆様方からの通報や道路パトロール業務委託により老朽・危険箇所を把握し、危険度の高いものから補修するよう努めている。②平成30年度は市管理4河川のしゅ

④土木事業は市民生活の安全を確保し、地域を発展させるためにも重要である。現在、栄町高禪寺線を初めとする市内環状ルート上の整備や、橋梁長寿命化対策等を進めるとともに、防災の観点から河川改修、用悪水路整備も必要である。



▲市道の草刈りの様子

大田市における 成年後見制度の現状は

成年後見支援センターに おいて助言などの支援業務 を行っている

みたに だけし
三谷 健 議員



くりに目的として、平成24年度より大田市社会福祉協議会に委託し、大田市成年後見支援センターを設置し、運営を行っており、市民に対する広報、啓発、相談者に対する申し立て支援や弁護士などの専門職の紹介、後見人候補者との受任調整、行政機関や専門職との連絡調整、後見人への助言や事例検討などを通じた後見人支援などの業務を行うとともに、一般市民が成年後見人などの役割を担っていく市民後見人の育成も行っている。

質問

超高齢化社会を迎え、2025年には、認知症の高齢者が700万人に達すると推計されている。身寄りの無い高齢者や障がい者の方を支援する成年後見制度があるが、全国的に普及しているとはいえない。認知症の高齢者の増加にともないニーズが高まる、成年後見制度の概要、市民への周知の方法や大田市の現状を伺う。

答弁

成年後見制度は、認知症など分となった方が、財産管理や遺産分割協議などを行う際に不利益をこうむることがないように主に法律面で支援する制度である。市では、制度の活用促進と円滑な運用のための体制づく

▶成年後見人制度イメージ



耐震性のない 市役所本庁舎の優先度が 高いのではないか

庁内検討組織を立ち上げ、 ワーキング会議などで有効策 を検討する

まつむら のぶゆき
松村 信之 議員



内では天井板が落下するなどの被害があった。また、震度6強以上の大きな地震発生時には、市役所本庁舎は倒壊のおそれがあることも公表されている。このような状況から、取り組みの優先度は高いものと承知しており、庁内検討組織を立ち上げ、ワーキング会議などを行うなど議論を始めたところである。今後、市民の皆様にも参画をいただながら、有効な方策を探ってまいりたいと考えている。

質問

昨年策定された大田市公共施設適正化計画について伺う。昨年に当市で震度5強の地震があった。各地でこの様な地震が続出している。公共施設適正化計画を見ると、市役所本庁舎は、耐震なし(検討対象)の施設のひとつに挙げられているが、本庁舎は他の施設よりも優先度は高いと考える。その取り組み方について伺う。

答弁

市役所本庁舎は耐震性を満たしておらず、計画においても検討対象となっている施設の一つである。昨年の地震では、最大震度が強であり、建物躯体への大きな被害は無かったが、議場を初め、庁舎



▲大田市役所本庁舎

仁摩道の駅の独自の魅力化策と住民の利用価値の向上策は

仁摩道の駅ならではの品目・品質にこだわった品ぞろえをしたい

和田 浩司 議員



駅自体の特色づくり、魅力ある運営をしていくことが重要だと考えている。

具体的な手法や運営については、恒常的なにぎわいをつくり出すイベント広場やキャンピングカー専用RVパークなど特色ある施設を活用しての魅力づくりに加え、観光資源や食、特産品といった大田市のさまざまな魅力を提供、発信することで立ち寄りたくなる、楽しんでいただけるような道の駅を目指し、リピーター、ファンの獲得につなげていけるような施設にしたいと考えている。

また、道の駅で提供する商品や料理は、野菜や鮮魚などの産地直売、加えてお土産や加工品、お酒や工芸品など、大田市の特産品を優先的に販売する予定としており、現在関係者や地元、指定管理予定者と協議を進めている。

尚、道の駅の名称については、未永く愛される拠点名となるよう、公募方式で選定をしたいと考えている。

質問

「仁摩道の駅」の開業が2年後に迫っているが、道の駅の運営実績を持つ事業者が指定管理予定者であるとは言え、行政の施設運営に係る役割は、地元文化を熟知している立場としては、非常に大きなものがある。

そこで、他の道の駅とは異なる独自の魅力化策と、住民における利用価値の向上策について、現段階での基本的な考え方を伺う。

答弁

仁摩道の駅(仮称)は、大田市の魅力発信最前線拠点と位置づけ、市内各所へ顧客誘導を図るものと考えており、いかに寄っていただくかが重要であり、石見銀山の出入り口という立地を生かし、道の

観光都市づくりにおける石見銀山遺跡の活用策は

市内だけでなく、より広域に向けて情報発信や誘客に取り組む

森山 明弘 議員



めとしたハード的な価値とともに、「住み続ける遺産」と言われる文化的景観としての価値が共存しているだけに、対外的にはその価値観を如何に情報として発信し来訪を促しているかが最も重要なポイントであると考えている。

来々春、三瓶山で開催される「全国植樹祭」は、循環型林業の先駆的な実施例として、石見銀山遺跡の知名度が飛躍的にアップするまたとない行事と考える。第2次大田市総合計画には、世界から愛される観光都市づくりとして、石見銀山遺跡の活用が謳われている。その具体策を伺う。

質問

世界遺産登録から12年が経過し、遺産としての「保全と活用」の適切な均衡を保ちながら、未来に引き継いでいくことが重要だと認識している。

但し石見銀山遺跡は、遺跡をはじめ

現状としては、継続的に行っている調査研究の結果発表や、昨年から刊行を始めた「石見銀山学」とはじめ「等の書籍を活用した歴史の周知活動を広げるとともに、今後はICTなどを活用して、海外向けの発信も強化していきたいと考えている。



▲石見銀山世界遺産センター

**議会改革・魅力化調査検討
特別委員長 中間報告**

議会改革・魅力化に関する事項並びに議会基本条例を議論した中での意見を内容とする「中間提言書」を提出する事を決定



小林 拓 委員長

第4回となる大田市議会改革・魅力化調査検討特別委員会を5月16日に開催した。

最初に議会基本条例の現状と課題について、改めて条文ごとに副委員長より説明を受けた。

続いてこれらを魅力化と議会改革に整理をした一覧表の説明をした。

議会の魅力化については、市民へ議員自らの言葉、文章で伝えることの重要性、議会報告会の手法、女性議会や若者、子ども議会など市民議会の開催、ホームページやSNSなどネット時代に即した情報発信の方法などである。

次に議会内部の改革に関しては、議会報告会の開催回数や夜間・通年議会など多様な議会開催、タブレット等の活用による情報提供機能向上と省力化改革、議員報酬のあり方や報酬審議会の毎年開催の検討などである。

委員会での意見や提案を基に当特別委員会として、議員のなり手不足解消を大きな命題として捉え、今後の魅力化への取組みとしては第一に女性議会を初めとする市民議会の開催、第二に議会報告会の手法とその内容の検討、議会改革に関わる取組みとしては第一に情報の公開、事務の合理化などを目的としたタブレット端末などの活用研究、第二に議員の資質向上や自己啓発を目的とする研修会等の手法の研究、以上の四つの項目を今後の当特別委員会における議論の方向性とした。また、当特別委員会での多くの意見や提案を考慮すれば任期後半へ委員会を継続すべきとの意見もあったところである。

以上、熱心な議論が続いていることを踏まえ、当特別委員会として議長並びに議会運営委員会、更に広聴委員会へ繋がるように①議会改革、魅力化に関する事項、②議会基本条例を議論した中での意見の二点を内容とする「中間提言書」を提出することを決定した。

**大田市政改
特別委員長 中間報告**



森 明弘 委員長

5月31日に第8回にあたる大田市政改特別委員会を開催した。

当日の付議議案は、第4次大田市政改推進大綱の策定要領についてであった。

説明の概要

一、令和元年度が第3次行財政改革期間の最終年度となることから、過去5年間の成果を検証した上で、第4次となる行財政改革推進大綱を策定すること。

二、効果額は平成29年度までの累積で51億円となるが、新たな行政課題や多様化する市民ニーズへの適切な対応が一層求められていること。

三、主要課題を財政の健全化、組織改革・人材育成、公共施設のあり方と管理運営と位置づけ、数値化・見える化を図ること。
四、策定スケジュールは大綱策定を

本年9月、実施計画は本年12月を目途とすること。

質疑

・「公共施設適正化計画」に基づく実施は、今年の10月からになると思うが、第4次行財政改革がスタートするまでの期間に、見直しはあるのか。

答弁

・公共施設適正化計画は計画どおり進めていき、第4次行財政改革大綱を策定するにあたり、改めて方針等を見直すことはしない。

質疑

・「公共施設適正化計画」は耐震基準を満たしていない市役所庁舎や保育園等の大きな課題を抱えており、これらの施設を今後どのように管理していくのかという議論のテーブルに早くのせるべき。

答弁

・耐震基準を満たしていない施設については、適正化計画の中で調査・検討を織り込んでおり、必要な費用も判明するので、庁内で十分議論しながら進めていく。

質疑

・財政の健全化の課題に対し、宿泊税のような自主財源という観点からの取り組みを採用できないのか。

答弁

・ふるさと納税を増やす仕組みや使用しなくなった市有財産の売却は必要と考えている。

議会報告会を開催しました!

大田市議会では今年度も、5月25日(土)に市内7カ所で議会報告会を開催しました。報告会では、3月市議会定例会での当初予算について報告し、お出かけいただいた市民のみなさんと意見交換を行い、たくさんのご意見をいただきました。本号では、その概要をお知らせします。

ブロック	開催時間	開催場所	参加者数
中央ブロック	19:00~20:30	大屋まちづくりセンター	8人
東部ブロック	19:00~20:30	波根まちづくりセンター	13人
西部ブロック	13:30~15:00	五十猛まちづくりセンター	5人
三瓶ブロック	13:30~15:00	北三瓶まちづくりセンター多根分館	11人
高山ブロック	19:00~20:30	祖式まちづくりセンター	6人
温泉津ブロック	13:30~15:00	福波まちづくりセンター	19人
仁摩ブロック	19:00~20:30	馬路まちづくりセンター	8人
			計70人

1. 実施状況

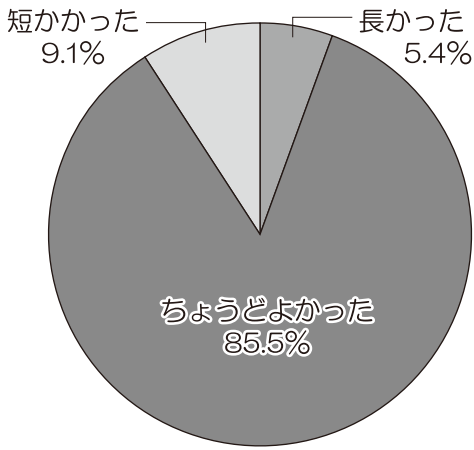


▲波根まちづくりセンター

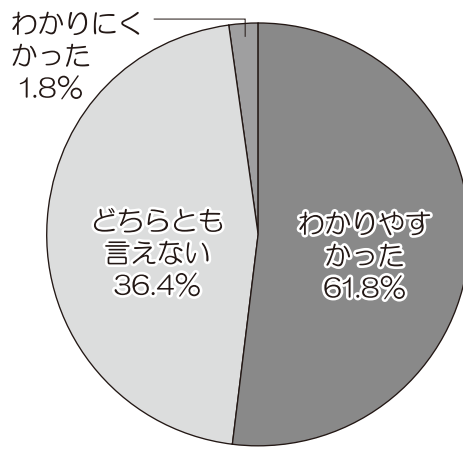
《年代別》		《性別》		回答者の内訳					
未記入	30代	40代	50代	60代	70代	80代	未記入	女性	男性
0人	0人	4人	8人	22人	24人	2人	3人	11人	46人

2. アンケート結果

<p>■ 報告会への参加のきっかけは?</p> <p>議会傍聴 (複数回答) 4人</p> <p>議会だより 41人</p> <p>ケーブルテレビ 25人</p> <p>ホームページ 4人</p> <p>その他 2人</p>	<p>■ 市議会の情報をどんな手段で得ていますか?</p> <p>見る 21人</p> <p>見ない 23人</p> <p>その他 6人</p>	<p>■ 議会の中継録画を議会のホームページに掲載した場合、ご覧になられますか?</p> <p>ある 43人</p> <p>ない 14人</p> <p>その他 1人</p>	<p>■ 銀山テレビの議会中継をご覧になられたことがありますか?</p> <p>ある 43人</p> <p>ない 14人</p> <p>その他 1人</p>
<p>議会だより 23人</p> <p>ケーブルテレビ 10人</p> <p>ホームページ 1人</p> <p>議員からの案内 22人</p> <p>その他 18人</p>			



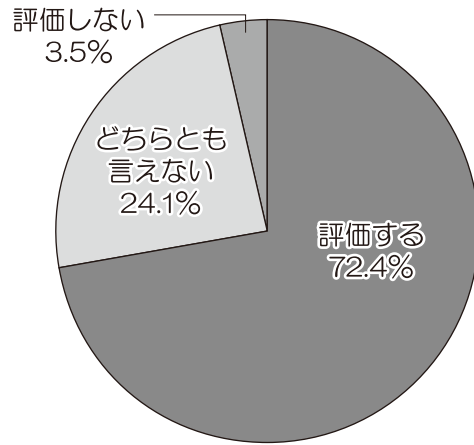
■ 報告会の時間はどうでしたか？



■ 報告会の内容はわかりやすかったですか？



▲大屋まちづくりセンター



■ 報告会の評価はどうですか？

3. 主な質疑・意見

◆ 議員定数

○無投票に終わった今回の市議会議員選挙において、今後の議員定数についてどのように考えているか。人口が減少している中で、どうしても議員定数の削減は市民感情として出てくるのではないか。

○今、市議会議員は2名の欠員となっている。現在18名で議会を運営している。何か支障はあるか。

◆ 議会の役割

○届けられる「議会だより」は毎回つぶさに読んでいるが、各議員の質問に対する回答内容は記載されているものの、結果としてその内容がどのような結果に結びついたのかは結局分からないという状況にある。できるならば、行政側との議論の見える化を図ってもらわないと、大田市の実態がつかめないと思う。

○議会が各地域の問題点を行政との間に立って情報共有してもらえる環境を整えば、少しでも楽しい大田のまちづくりができると思うので検討を願いたい。

◆ 環境衛生施設の名称

○環境衛生施設が、一地区に集中しているので、「クリーン○○」のように、ハイカラな名称に変更してはどうか。

○「大田市議会改革・魅力化調査検討特別委員会」では、方向性をいつ頃出すのか。

◆ 地域での活動

○「大田市海岸を美しくする活動」のような地域での活動をその地域のボランティア任せにされると、高齢化問題があつて対応がしづらくなっている状況がある。行政としての対応を再検討してもらいたい。



▲北三瓶まちづくりセンター多根分館

◆農業の振興

○県知事が代わって、園芸作物をどんどん作れば補助金が出るという話になってきた。過疎化・高齢化したところでは、若い人がいないために園芸作物は手を付けようがない。もう少しバックアップできるような体制づくりを考えてもらいたい。

○地域の農業の再生を図るため、儲かる農業を目指すべきではないか。そのためには、会社組織などにして、従業員を雇って、機械化を進めていくなど、エリア外からでも若い人を引っ張り込めるような魅力ある農業再生に取り組んでももらいたい。

○多面的機能支払い交付金の農地維持支払いが半分になるかもしれない。高齢化が進み、農地の維持が困難な状況になっている上に、交付金が減額されると意欲が減退する。

◆道の駅

○産業建設の報告の中で、「道の駅」について説明があったが、果たしてきちんと経営していくことができるか心配している。高速道路がつながってしまつと、わざわざ高速から降りて施設を利用してもらえるか疑問であるため、そのあたりは慎重に検討してもらいたい。



▲株式会社まちづくりセンター

◆小さな拠点づくり

○大田市版「小さな拠点づくり」と鳥根県の「小さな拠点づくり」はどこが違うのか。大田市版では、ハードの部分も対象になると考えてよいか。

○大屋は人口が300人で高齢化率も6割近い。それでも将来大屋をどうしていくかというデザインを描いていかなければならないが、そういうところへの支援体制の充実を願いたい。

○馬路では小さな拠点づくりの準備委員会を立ち上げたところだが、行政からの丸投げでは、いろいろな事

業を実施するにも予算的に厳しい。雲南市のように地域に予算をつけてもらいたい。

◆地域における景観保全

○三瓶ダム周辺の木が大きくなって、湖面が全く見えない状況である。毎年、少ない予算でもよいからつけて、少しずつでも切ってもらいたい。

◆周遊観光

○温泉津・銀山・三瓶を線で結ぶような観光を考えていくべきではないか。それは道の駅の活性化ともつながると思う。

○温泉津・銀山・三瓶という他の地域にはないものを持っていながら、バラバラの宣伝になっている。パンフレットひとつをとっても、三つがどう結びついているのか、ルートはどうなのか、ここからここまで何分かかるのか、そういうところに焦点を絞ったようなパンフレットとかが必要ではないか。

◆人口減少問題

○地元に住み続けるため、子どもたちが大田市の未来図を描かせてはどうか。

◆海岸・河川の浚渫

○吉浦海岸の砂の撤去をしてほしい。3年前に土木課で除去して海に戻した。浜の砂も除雪のような考え方で、3年おきくらいに対応してほしい。

◆害獣被害

○サルやイノシシ被害について、市はどう対応しているのか。

◆自治会加入

○山口町では8自治会あったが一つの自治会に統合する話を進めている。大田町でも自治会に加入しない人もいるようだが、そこに住んでいる以上自治会に加入すべきではないか。



▲福波まちづくりセンター



▲国立公園三瓶山

◆三瓶の観光振興

○今年の連休では、石見銀山より三瓶のほうが観光客数が多かった。三瓶に住むものとしては、植樹祭が終わった後のことを考えなくてはならないが、三瓶を一大観光地にしたいために、三瓶と広島を一本の道路で結ぶようなルートは考えられないが。

○オーターンしてきて埋没林を見たときに非常に感銘を受けた。観光資源として有効活用するためにも、PRの方策をもっと考えてはどうか。

◆公共施設

○馬路地区のまちセンは老朽化が進み、外壁が落ちたり、雨漏りするなど傷んでいる。地区の避難所として機能させるためには建て替えが必要である。

○馬路ではまちセンで敬老会を開催しているが、2階に上がれない高齢者があり、文化祭も同様の状況である。また、浜田沖で地震が発生した場合は、海拔が低く津波を想定すると避難所として使用できない。

○まちセンの使用料が10月から徴収される。小さな拠点づくりのための会合を開催するにもまちセンを利用することが多い。このような会合等の使用料は徴収しないほしい。

◆自然の保全

○現在、「国有林野管理経営法改正案」が審議中だが、大田市では国有林の伐採や再造林について、事業者を募って実行させるような動きはあるのか。市の面積の75%程度を森林が占めている以上、自然の保全については心配している。

◆施設の老朽化

○先日、代官山に行ってみたら、施設の老朽化が著しかった。行政として今後の使用についてどう考えているか聞いてみたい。

貴重なご意見ありがとうございました。ご意見、ご要望に対する回答は、次号発行の本誌にて掲載予定です。



▲馬路まちづくりセンター



▲五十猛まちづくりセンター

全員協議会の議題

議案の審査または議会の運営に関し協議・調整をおこないます。

5月20日

- ・国民宿舎さんべ荘改修工事の契約の締結について
- ・大田市総合体育館の変更契約の締結について
- ・三瓶観光リフトの故障について

6月14日

- ・令和2年度大田市重点要望について
- ・波根地区工業団地への企業進出について

- ・大田市立病院の運営状況について

6月21日

- ・「統一的な基準」による財務書類の作成について
- ・「空家実態再調査」の調査報告について
- ・波根地区工業団地への企業進出に伴う団地周辺の土砂災害特別警戒区域等に対する対応について

6月28日

- ・会計年度任用職員制度について
- ・温泉津ふれあい館の公募型プロポーザルによる売却について

